

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200686
法人名	医療法人社団醫光会
事業所名	グループホームとんぼ
所在地	群馬県高崎市上豊岡町913-3 (電 話) 027-344-6100
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年2月28日

【情報提供票より】(平成21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.7	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 90 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低 70 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はぎわら内科医院	ひろかみ歯科
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホールの面積は広いがソファや季節の装飾、花が生けられる等の設えによって、落ち着いた雰囲気で居心地よい環境になっている。管理者と職員は一人ひとりのプライドを大切に思い思いにゆったりと過ごせるように支援に努めている。一人ひとりの表情が豊かで自分らしく生活を送っている様子が伺えた。職員の見守りで、利用者が日当たりのよい廊下の片隅の椅子にかけて外の景色を見て過ごしていたが、その姿には存在感があつて、居心地よさそうで印象に残った。利用者と職員が共にゆったりと穏やかに生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善課題である①評価の意義の理解と活用では自己評価の作成を職員全員で取り組むようにした。②入浴を楽しむことのできる支援では入浴回数の改善はされているが、希望やタイミングに合わせて入浴ができる体制にはまだなっていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、全職員に評価項目の内容について意見を求め作成している。職員全員で自己評価には取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に(2ヵ月に1度)開催しており、利用者、活動状況や職員異動、ヒヤリハット内容と対策等の報告をし参加者から質問や意見、要望を聴いている。参加者からはインフルエンザやノロウイルス等の感染症について市としての対策の質問が出て、市担当者から説明をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議には家族全員に案内を送り、参加をしてもらい意見や要望を聴いている。家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに配慮している。家族からの意見をもとに職員全員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時に地域の方と挨拶や話しをしている。また、野菜を頂くこともある。小学校の運動会に出かける、法人の秋祭りに地域の方を招待し交流を図っている。区長さんから鮭の稚魚を預かり育てており、まもなく放流する予定である。同法人の施設利用者とも交流をしている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は職員会議で日々の関わりの振り返り時に、理念に基づき確認し合い共有し、理念の実現に向けて取り組んでいる。ホールや事務室に掲示してある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の方と挨拶や話しをしている。また、野菜を頂くこともある。小学校の運動会、法人の秋祭りに地域の方を招待し交流を図っている。区長さんから鮭の稚魚を預かり育て、まもなく放流する予定である。同法人の施設利用者との交流もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員に評価項目の内容に対して意見を求め作成をしている。職員全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2ヶ月に1度)開催をしており、利用者、活動状況、職員異動、ヒヤリハット内容と対策等を報告し参加者から意見や要望を聴いている。参加者からインフルエンザ、ノロウイルス等の感染につき、市としての対策について質問があり市担当者が説明を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや市主催の研修会等に参加をしているが、管理者が市担当窓口を訪れたり等ではまだ連携がとれていない。	○	市の担当窓口を訪れたり、事業所の運営や実情等を積極的に伝える機会を作り、情報交換を行いサービスの向上に取り組まれることが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に健康状態や暮らしぶり等を報告している。また、電話もしている。家族にはきめ細やかにするように努めている。法人便りの他に事業所独自で「とんぼだより」を発行し、家族に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族全員に案内を送っており、都合のつく家族に参加をしてもらい意見や要望等を聴いている。家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに配慮している。家族からの意見を下に職員全員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職や異動によることの利用者へのダメージを防ぐように努力をしている。職員間で何でも話し合える関係づくりに留意している。年齢的なバランスにも配慮するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は接遇や感染症、救急救命講習等を積極的に受講している。外部研修は交換研修、地域密着型サービス連絡協議会の研究発表を行い、サービス向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修等で交流をしている。また、系列の事業所等の情報交換等を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からよく話を聴き、状況等を確認している。見学しながら雰囲気を見てもらい、本格的な利用になるよう支援している。施設や自宅に訪問をし馴染みの関係になるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から、日常生活場面で昔の話、歌、繭玉作り、地域の行事、歌手について等教えられることが多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、一人ひとりとの対話を多く持つことを大切にし、希望や意向の把握に努めている。利用者の言葉や言葉にすらい思いを行動や表情等から推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聴き、反映させるようにしている。毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や受診、買い物等の必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い、本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人、家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に事業所の指針を説明し同意を得ており、状態の変化に応じ、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、随時、家族と関係者が話し合い意志を確認しながら全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を全職員がしないように留意している。個人情報保護法の理解に努め、個人記録や面会簿等の取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操、リハビリ等その日、その時の本人の気持ちを尊重し、利用者のペースにそって見守りながら希望に応じ支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のつる取り、テーブル拭き、下膳、食器拭き等を利用者と職員が一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりをしている。献立や食材は外注であるが、利用者の好みに合わせアレンジをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は週3回であるが、職員が一方的には決めずに、利用者のその日の希望を確認し入ってもらっている。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりのタイミングや希望に応じ、いつでも入浴ができる体制の工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたむ、布巾をたたむ、食事の後片付け、モップ掛け、ごみ出し、テーブル拭き、歌を唄う、体操、将棋、カルタ、季節の花見、外食、散歩、ドライブ等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブ、季節の花見、外食、庭で過ごす、ウッドデッキ等一人ひとりの希望にそって戸外に出るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。同法人の協力体制や地域の協力員体制も強化されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花、観葉植物、小さな置物、長椅子等が設置されている。ホール内は季節感を採り入れた、ひな壇飾りや花が生けられている。ソファ、リハビリマット台、廊下の片隅に椅子等が設置され思い思いの場所で過ごせるよう環境に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス、テーブルや椅子、鏡台、ぬいぐるみ、化粧品、時計、衣装かけ、毛布、家族写真、リクライニングの椅子等馴染みの物が持ち込まれ居心地よく過ごせる場所となっているように見受けられた。		